

風土記の丘の花だより²⁸⁷

今、そしてこれから見られる植物(2025年9月6日)

9月になったというのにまだまだ真夏の暑さが続いています。夏の終わりのセミ、ミンミンゼミやツクツクボウシの鳴き声に混じって、まだ真夏のセミ、クマゼミの声がたまに聞こえます。いつになったらこの暑さがおさまるのでしょうか。



かわいそうな名前のヘクソカズラがきれいに咲いています。こんなかわいい花にどうしてこんな不名誉な名前が付いたのでしょうか。それはこの草全体から漂う悪臭によります。でも、折ったり触ったりしなかったらそんな臭いはしません。花だけを愛でてやりましょう。「屁糞かすらも花盛り」ということわざがあります。「少々不細工な娘さんでも、年頃になるときれいになるものだ」という意味だそうです。それもかなり失礼な言い方ですね。とにかく花はかわいいです。



今年もケンポナシの実がたくさんなっています。丸いのが実で、その付け根のくねくねしたところが、秋になると甘く熟します。サクランボに例えれば軸に当たる部分です。食感はシャリシャリしていて甘く、まるでナシのようです。ケンポとは面白い響きですが、どんな意味でしょうか。私は不勉強で語源は知りません。万葉植物園を過ぎて、ハクモクレンなどが植えられた花木園入り口の左側、小さな溝をはさんで1本だけ植えられています。



濃いピンク色のアレチヌスビトハギの花が咲き始めました。今はきれいで、よく見ると可愛い花ですが、秋の終わりになると、やっかいなひつつき虫になって、皆さんを困らせます。アレチは言うまでもなく「荒れ地」のことで、植物の生育には劣悪な環境のことを指します。そんな環境にでも適応して繁茂する外来植物の名前によく用いられる言葉です。ほかには、アレチウリ、アレチノギク、アレチギシギシなどが身近で見られる、名前にアレチと付く外来植物です。



残念ながら、今年、この花はもう見ることはできません。少し前、旧小早川家の庭で咲いていたナツズイセンです。来年の盆過ぎまでお待ちください。「こんな花が咲いていたよ。また来年のお楽しみ」ということをご了承ください。真夏にヒガンバナみたいに葉を出さず、花茎だけ伸ばして花を付けます。園芸植物でリコリスの名前で知られています。花はスイセンに似ていませんが、葉がスイセンに似ているし、夏に咲くので、この名前が付いたのでしょうか。2週お休みをいただいたら、ヒオウギやタカサゴユリの花は終わっているし、

マルバハギが咲き始めているしで、辺りの様子かなり変わっていて驚きました。 松下